

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

# 第23集

（長野県道 1 号線～508 号線）

NO.155 ほうばすしを作って楽しむ

NO.156 飯山から鍋倉山（関田峠）を越え、旧板倉町に

（長野県道 95 号走破）（長野県道 409 号走破）

NO.157 高遠から伊那谷に向かう平野を走る

（長野県道 207 号走破）（長野県道 209 号走破）

NO.158 アニメ聖地巡礼発祥の地＝田切駅と飯島駅（飯田線）

（長野県道 215 号走破）

NO.159 松代群発地震（1965 年～1970 年）

（長野県道 385 号走破）（長野県道 388 号走破）

NO.160 遅れていた諏訪湖スマートインター開通

（アクセス道路長野県道 50 号として開通・走破）

NO.161 自宅より 4 分（1.6km）の清水寺（山形村）探訪

## ほうばすしを作って楽しむ

澤田 繁 著

2025.6.30、清水高原テニスクラブでは、このところ毎年「ほうばすし」を作って楽しんでいる。今年は昨年より2週間遅れで実施しました。清水高原(長野県山形村)には、ほうばの木は、ところどころで見かけます。松本地方では「ほうばの料理」はないので、最初は、【ほうば味噌】《「朴葉(ほうば)味噌」は岐阜県の飛騨高山地方に伝わる郷土料理。味噌にねぎやしょうがなどの薬味やしいたけを混ぜ、朴葉の上で焼いたもの》をやると思い「ほうば味噌用の葉」作成をしましたが、何度か失敗してやめてしまいました。【ほうば巻き】は、木曽地方にある事は知っていたが、ここ十数年前に初めて食べた気がする。現在の国道19号線沿いには木曽福島から中津川まで沿道に、ほうば巻きのぼりがあちこちにあるようになった。ほうばの葉は、枝先に集まって輪生状に見え、枝先を折ると複数枚(8枚くらい?)一束で収穫できる。ほうば巻きは、この一束をつなげたままむして作るので、そのまま買うには大変だが、小分けしても売っているので助かる。

松本地方では、端午の節句に、子供の頃「柏餅」を近所の柏の木から葉を取って来て、家で食べていたので、清水高原に住んでからは、柏の苗を探して植えたが、葉が多くつけるまでには至らなかった。【ほうばすし】を見たのは、十数年前に、恵那峡サービスエリアの売店であった。『中津川でこの時期食べたいものといえば、朴葉(ほおば・ほうば)寿司!中津川の各地で見られる朴の木の葉に、酢飯とその上にいろんな具材がのった料理です。農繁期の携帯食が発祥と言われ、北陸から入ってくる塩鮭を酢で〆、〆た酢で酢飯を作り、鮭をのせただけのシンプルなものだったそうです。今は各家庭、地域で7、8種類の具材をのせた朴葉寿司が作られています。』



数年前にふと先生がいる事に気づき、テニスクラブの女性陣に作り方を教えてもらいながら「ほうばすし」を始め、その後毎年行い、今年も行う事が出来ました。葉の処理方法は、前日に用意し、乾かない方法を模索。熱いうちに酢飯をほうばの葉にくるむと香が一番のる。具はその都度出来る範囲で用意すればよい。ここまで進化しています。今年は22人分を計画し進めてきた。

1) 清水高原に立っている朴の木から、大きくなった葉を200枚ほど採る(前日)

2) 採った葉を、つかえそうな葉を選別し、水洗いしタオルでふいておく

3) 一升炊き炊飯器2台でごはんを炊き(予備にもう一回炊いておいた)、酢飯を作る。 合計26合

4) 温かいうちに、酢飯をほうばの葉にくるむ

5) 具材を酢飯の上のせ完成(具材は、旬のきやらぶき・旬のはちく・金糸たまご・しいたけ・でんぶ・酢サバ・つくだに・きゅうり等)(分担して準備)





具材の中で「きゃらぶき」はかかせない、特に清水高原で取れた「やまぶき」を使うのが定番となっている。今まで担当の人が今年はまだ清水高原に来られていないので、澤田家が担当することになりました。自宅前の「やまぶき」を4日前に収穫し、皮をむいてから煮て味をつけて完成させました。たまたま生坂村の道の駅で淡竹（はちく）を買ってあったので具の一つに加えました。淡竹は、この辺の道の駅などでタケノコに比べ安価で手に入る食材として重宝している。

具材は、それぞれが前日から用意が始まりましたが、量が多いので時間はかかりました。清水高原の自家栽培しいたけは、次期的に終了してしまったので市販品を使うしかない。つくだに・酢サバ等はやはり前日から買い物をし、冷蔵庫で保存しておいた。ごはんも炊く準備をしていた。



2025.6.30、女房が起きて来て、8時に炊飯器ONし、スタートしました。澤田家には、1升炊きの炊飯器が2台あるので、大人数分一気に炊くことができます（今回は、2回炊いて、合計26合炊きました）。ほうばすしの会場は、清水高原テニスコートではあるが、会場まで、車で5分くらいかかる澤田家で、9時から4人で「具をのせる手前まで」作ります。炊きあがったごはんを酢飯にし、さめないうちに「ほうばの葉」でくるみ、容器に並べていきます。

11時から開始できるように、いくつもの容器に載せた「ほうばの葉にくるんだすし」を車で

運びはじめました。会場では、具を並べる作業が始まり、いよいよ開始宣言まじかになりました。11時頃から招待客も集まり始め、11時15分開始しました。会場にいる人は、セルフで具をのせて食べるという方式でお願いしましたが、人数が多いので少し順番待ちになってしまいました。

これだけ具の種類があると、4個くらい食べてもらい、具の組み合わせを変えて味わってもらえる事が出来た。ほうばの葉の香等が酢飯に乗って（微量なので、わからない人もいる）旬の食べ物になった。会場にて、皆で一緒に食べて人数は、19人で、食べてもらい家に持って行ってもらった人数は9人で、予定の22人を大幅に超えてしまいましたが、女房がそれを見越して6合余計に炊いてくれました（私がやるといつもの事のように人数がいつのまにか増えます）。





《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.7.1

飯山から鍋倉山(関田峠)を越え、旧板倉町に

澤田 繁 著

(長野県道 95 号走破) (長野県道 409 号走破)

2025.7.1 今日は、気になっていた国道 403 号線(松本市~新潟市)の県境を越える挑戦に出かけた。松本インターから高速に乗り豊田飯山インターで降りてすぐに「道の駅ふるさと豊田」で昼食を食べた。ここの盛そば、量も多くいつも満腹になる。ちょっと買い物し出発した、国道 117 号線を飯山方面に行き「斑尾高原」の矢印がある表示を見つけ左折して、飯山市街にはいかないで西側の道を走り、国道 292 号線と交わる藤ノ木交差点に到達した。ここから県道 409 号線(曽根藤ノ木線)が始まりました。旧柳原村(昭和 29 年まで)の旭地区から旧外様村(昭和 29 年まで)の緑・中曽根・寿地区を走り、さらに旧太田村(昭和 31 年まで)の豊田・常郷地区を走って県道 95 号線との交点である曽根の三差路についた。この地域ひとつの盆地をなしており、田んぼが多い。途中工事箇所があり、迂回して「長峰スポーツ公園」に寄った。なお迂回区間は、2022.5.11 に鍋倉高原に行った帰りに通った(県道 409 号線走破)。

県道 95 号線を鍋倉高原方面に登って行き、旧岡山村(昭和 31 年まで)の一山地区の入り、この辺り、県道 95 号線を更に上の高原の方に、県道 116 号線の下の方の千曲川の方にいったりきたりして散策した。いよいよ今日の目的である国道 403 号線に、県道 95 号線からみゆきのラインを経由して行こう。

みゆきのラインを走る事 15 分、いよいよ 403 号線が見えた。果たして通行できるのか?結果はまたも土砂崩落のため通行止めでした。通行止め期間の表示もなく、仕方なく国道 403 号線を下りました。相変わらず千曲川に出るまで区間、狭い国道であっ



た。国道 117 号線に出て、栄村の森宮野原駅でトマトジュースを 2 ケース買い、後は目的なく新潟県に入っていました。国道 117 号線(津南町⇒十日町市⇒小千谷市)・関越高速道(越後川口 IC⇒小千谷 IC)・国道 291 号線(小千谷市⇒長岡市⇒柏崎市)・国道 252 号線(柏崎市)・国道 8 号線(柏崎市)・北陸道/関越道(米山 IC⇒上越 JCT⇒新井 PA⇒須坂長野東 IC⇒更埴 IC)。荒井 PA で車を止め、そばにある魚やで魚を買い、須坂長野東 IC で降りて、イオンモールの完成度などを見て再び高速に乗り、更埴インターで降り、娘の



家に寄り魚などのお土産を渡して少し休んで、姨捨スマートインターに乗って帰宅した。今日の走行距離はなんと 450km でしたが、ただ走っただけの感じがした。国道 403 号線ショックがあとをひいたのだ。

2021.5.11 野沢温泉に行った帰りに、飯山線・戸狩野沢温泉駅まで来て休憩し、蔵元「角口酒造」に寄って＜北光＞を買い、ついでに県道 95 号線で鍋倉高原に行く事にした。登って行くと田茂木池があり、さらに登って行くと、5 月なのに「冬季通行止め」になっていて、あと数キロで峠まで行けたのにと、損した気分で引き返し再度挑戦が必要のようだ。長野県の国道・県道など冬季通行止めの道は多いが、期間については、南が短く・北に行くほど長くなっている。ちなみに県道 95 号線は R6.11.8～R7.5.22、国道 403 号線は R6.11.7～R7.6.6 となっている。



2021.11.2 再挑戦の日がきた。豊田飯山インターで高速を降り、まだらお高原方面から飯山市街に入り、国道 117 号線を北上し、県道 95 号線（上越飯山線）の起点になる黄金石入口交差点の変則三差路を左折した。横に飯山線が走っており、昭和 29 年まで常盤村（常盤・照里・大池・小沼）であった所を「戸狩野沢温泉駅」



に向かって走り、県道 95 号線は、駅手前 250m の三差路から、左折して鍋倉高原に向かっていた。左折して 100m 程行くと、旧常盤村から旧太田村（昭和 31 年まで・常郷・豊田）の常郷地区に入り、緩やかな登りが始まった。ここの標高は約 320m で飯山市街もほぼ同じ標高である。角口酒造の横を通り、昭和 31 年まで岡山村（照岡・一山）の一山地区にはいり、みゆきラインとの交点（標高 520m）くらいから登りがやや急になって行き人家もなくなり、カーブも多くなった。鍋倉高原の広さは、よくわからないが、県道 95 号線沿いは、

植林された木がほとんどなく、低木でおおわれていた、まさに高原の紅葉が一面に見る事が出来て素晴らしかった。頂上が近づくにつけ高い木も多くなってきて景色を遮った。開田峠（標高 1120m）に着き、ここから長野県道 95 号線から新潟県道 95 号線に変わる。

新潟県に入り、ところどころ新潟県の景色が見える所のある下りの道を進むと、右側に「あさま山荘事件・難局打開の鉄球」の碑が見えたので車を止めて見



に行った。左側の鉄球が、あさま山荘事件に集められた鉄球で、右側の鉄球が、映画撮影に使用した鉄球の表示があった。

映画、突入せよ！「あさま山荘」事件は、監督・原田真人、主演・役所広司コンビ2002年公開された。このロケ地が光ヶ原高原であったため、記念としてロケで使われた**鉄球**が展示されている。

県道 95 号線と国道 403 号線

の間は、上越市と境をなしているが、平成 17 年（2005 年）の 13 町村の合併までは、大島村・安塚町・牧村・清里村・板倉村が長野県と接していて、上越市は、長野県と接していなかった。県道 95 号線は、旧板倉村（現上越市板倉区）を走る道路で、関田峠から板倉区関田・板倉区達野・板倉区別所・板倉区宮島・板倉区曾根田・板倉区針（中心地）・板倉区横町・板倉区下田屋・板倉区田井・板倉区稲増と走り、関川を渡った所で昭和 30 年に高田市になった旧和田村の島田地区（明治 22 年まで下板倉村）に入り、国道 18 号線の島田交差点で終点となる（県道 95 号線走破）。この日は、18 号線を北上し、昭和 46 年まで直江津市（高田市と合併し上越市となる）の海まで足を延ばし、直江津港佐渡汽船カーフェリー乗り場を見て、船見公園や水族館のある海岸沿いを走り、上越インターから帰宅した。

又は澤田繁のホームを検索し、ホーム⇒歳時記



## 清水高原(きよみずこうげん)歳時記 (長野県道完走編)

NO 道157

《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.7.8

## 高遠から伊那谷に向かう平野を走る

澤田 繁 著

(長野県道 207 号走破) (長野県道 209 号走破)

2025.7.8 国道 153 号線（塩尻市～名古屋市）を使い伊那北インター入口前を通過し箕輪町に入りました。国道 153 号線の箕輪バイパスに入り、店舗・工場が道沿いにある箕輪町を過ぎ、南箕輪村に入り天竜川を渡ってすぐの側道を使い県道 19 号線に入った。県道 19 号線を少し戻って卯ノ木交差点を右折して県道 207 号線（美<sup>み</sup>簗<sup>なづ</sup>箕輪）に入りました。県道 207 号線は、国道 153 号線（バイパスではない方）の木下南部交差点が始点になって、箕輪バイパスを横切り、新箕輪橋で天竜川を渡り、県道 19 号線と交わり、卯ノ木交差点まで重複している路線で、2021.5.25 に走った区間である。ここから（県道 19 号線との分岐点）の 207 号線は谷間を登る道で、しばらく行くと広々とした台地が広がっていた。この付近を走る県道 19 号線の上は、河岸段丘の上の丘であった。この台地の中央（図の灰色に塗った道路）には、整備された道路（南小学校前～末広西）が走っており、以前に通った事があり、この道路の始点である、辰野方面から 19 号線で南下し、県道 19 号線との分岐点からすぐに「福与城跡」があり、立ち寄った。この箕輪町福与地区は、隣の三日町とともに





昭和 30 年まで箕輪村であった所である。高遠方面にいくほとんどの車は、この整備した道を通るようだ。

丘に出た県道 207 号線は、旧手良村（昭和 29 年に伊那市に）の耕作地と集落を走る。旧手良村から旧美<sup>みすず</sup>簫村に入った所に「七日市場跡」の碑があり、車を止めて散策し写真を撮った。碑文には「此の付近地名を七日市場とよぶ、月の七日・十七日・二十七日毎に市が開かれた、中世鎌倉時代末期から商業経済の主流を成す、物資の交易のあった処である」とかかれてあった。



県道 207 号線の終点である笠原入口交差点の手前から丘を少し下る。地図でもわかるように三角形の丘（平野）は、天竜川と南アルプスから流れて来る三峰川に挟まれていて、両川によって作られた河岸段丘の上にあたる。三峰川北側の河岸段丘は 2 段になっていて、笠原入口交差点との交点の国道 361 号線は、1 段目の平地を走っている。交差点に出て左折し高遠町に行き、少し休憩した（県道 207 号線走破）。

高遠町の小原交差点から始まる県道 209 号線（沢渡高遠線）に入り、よく高遠饅頭を買う「千

登勢菓子店」の前の「ニシザワ高遠食彩館」で昼食を買って食べた。食彩館を出て少し下ると、三峰川の南側に出て、三峰川橋まで川沿いを走った。この先、山が川近くまでせり出しているため、左折し山の際を回り込む道を走り、開けた場所に出た。ここから、三峰川と天竜川で作られた河岸段丘（図の緑色破線）を走り始め、旧富<sup>とみがた</sup>県村（昭和 29 年に伊那市に）から旧東春近村（昭和 29 年に伊那市）に入り、県道 18 号線をつ切り、進み、段丘を降り「中殿島交差点」をつ切り渡場交差点まで来た。直進すれば県道 209 号線の歩道および自転車道の「殿島橋」を渡り、国道 153 号線の沢渡交差点に出る。右折して「春近大橋」に出て天竜川を渡り、国道 153 号線に出て左折し、200m 程行った沢渡交差点が 209 号線の終点となった。写真は沢渡交差点から写した県道 209 号線の歩道・自転車道です（県道 209 号線走破）。

この日は、この後国道 153 号線を南下し、田切駅・飯島駅（次号 NO.158）に行き「信州里の菓工房」で喫茶店に入り、休憩し帰宅した。





《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.7.8  
アニメ聖地巡礼発祥の地＝田切駅と飯島駅(飯田線)  
(長野県道 215 号走破)

澤田 繁 著

2025.7.8 前号からの続きで、国道 153 号線のバイパスに入り、「道の駅田切の里」まで行き休憩した。ここから飯島町道追引南田切幹 1 号線を使い国道 153 号線まで緩やかに登って行き、国道 153 号線に出て 100m 程で飯田線の下を通った。駅はすぐそばなのに行く道が見当たらない。遠回りしていけ

そうなので行って見たら大きな駐車場に出、その前が「田切駅」でした。

田切駅は、盛土をしてちょっとした谷を越えている線路上にあった。登り口は、反対側らしく、ホームも反対側に見えた。ホームの待合室の下に、「アニメ聖地巡礼発祥の地」の碑を発見、文字の他、**日の丸の扇子・学生服・自転車・下駄**の絵がある碑であった。女房がスマホで調べてくれている間に、横にある「聖徳寺」を見学に行った。土塀のある門、あじさい、大きな鬼瓦の展示などを見て来ました。

アニメ巡礼発祥の地、1990 年代にアニメとなった、とある作品舞台となった場所があり、そこに多くのファンが訪れるようになった場所があります。その場所には「アニメ聖地巡礼発祥の地」と



呼ばれています。アニメ聖地巡礼発祥の地と呼ばれている場所は、長野県上伊那郡飯島町田切の JR 飯田線の田切駅です。ここは 1991 年に公開された OVA (オリジナル・ビデオ・アニメ) アニメ「究極超人あ〜る」で登場した場所で、田切駅から伊那市駅までを自転車で走り抜ける場面が印象的であり、それから多くのファンが田切駅を訪れるようになりました。そして、ファンからの寄付を募り、2018 年 7 月に田切駅前の駐車場に「アニメ聖地巡礼発祥の地 記念碑」が建てられました。「究極超人あ〜る」は、1985 年から 1987 年にかけて『週刊少年サンデー』(小学館)で連載された「ゆうきまさみ先生」による漫画です。私立春風高校を舞台として、「光画部



（写真部）」の生徒やOBたちとのドタバタとした出来事を描いた学園コメディです。主人公が**学生服**と**下駄**をはいていて、田切駅（間違っで下車で時間に間に合わない）から伊那駅（目的の駅）まで、急遽改造して10人乗りの**自転車**で伊那を目指すストーリー。

駐車場から出発する寸前に、ホームから電車が間もなく到着するアナウンス（無人駅だから多分電車から送られてきている）があり、待つて見る事にしました。少したつと、遅れて到着のアナウンスがあり、もう少し待っていたら飯田方面から現れた。この時、アニメストーリーを知っていたら場面の想像が出来て、巡礼っぽい気分になったのに残念でした。

田切駅を出発し、国道153号線を南下し、飯島駅に向かう、この間三州街道は、国道153号線に沿っていて、支線として残っている。飯島宿の気配は、感じられずに、飯島町役場入口交差点を左折し、飯島駅の駅前通りを200m程進むと駅に到着した。この駅前通りが県道215号線（飯島停車場線）となる（県道215号線走破）



#### 【付録】飯島町

飯島町：鎌倉時代は源氏の飯島氏の所領、江戸時代天領、三州街道の飯島宿があった。明治時代に田切村と飯島村と本郷村で飯島村が発足し、昭和に入り、天竜川東側の日曾利地区を編入、昭和29年に飯島町となる。昭和31年には七久保村と合併し現在に至る。地理的には、日曾利地区の天竜川東の所を除き、天竜川西側から中央アルプスまでの区域で、町北側には中央アルプスから流れる「中田切川」で田切地区が駒ヶ根市と隣接する。田切地区と飯島地区を挟んで「与田切川」がある。与田切川から南のアルプス寄りが七久保地区で松川町と中川村に隣接していて、天竜川寄りが本郷地区で中川村と隣接している。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

又は澤田繁のホームを検索し、ホーム⇒歳時記

この日は、飯島駅より国道153号線に戻り、与田切川の谷に降りていき、川を渡り、与田切交差点を右折し、県道15号線（第13集NO.85）に入る。三州街道は以後飯田までは、県道15号線に沿って、中央アルプスの山際に近い所を通っている。県道15号線沿いにある「信州里の菓工房」でコーヒープレイクし、伊那西部広域農道を通り、駒ヶ岳スマートインターから帰宅した。





《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.7.22

## 松代群発地震(1965年~1970年)

澤田 繁 著

(長野県道 385 号走破)(長野県道 388 号走破)

2025.7.22 悪石島近辺の群発地震、最近少なくなって来ているように思う。長野県松代町(現長野市)の群発地震は、1965年(昭和40年)8月3日~約5年半に渡って、世界的にも稀な長期間にわたる群発地震である。女房は、この地震にまさに巻き込まれた経験がある。実家は川中島古戦場の南にあり、小学校は、今はない西寺尾小学校(昭和40年卒)で、昭和40年から松代中学校に通い始め数か月後から、全中学校時代

を一日中地震に影響される日々を乗り切ってきた。当時は、高速道路はなく、屋代からの電車が松代を通り須坂まで走っていて、国道も現在の路線ではなく市街地を走っていた。震源地は、皆神山を中心とした半径5キロメートル(川中島古戦場付近)の範囲内であった。原因としては、発生当時、メカニズムは不明であり、その後の観測体制の整備と研究により、現在では「水噴火」モデルが定説となっている。この「水噴火」モデルは、深さ数~数十kmの帯水層に存在する高压の地下水が、上部の岩盤に浸入・破碎することで地震を引き起こすというものである。さらに破碎が進むことでこの地下水が地表に湧出し、液化化や大量の湧水を引き起こした。そして水圧による岩盤の破壊が長期間・連鎖的に起こった



ことで長期にわたる群発地震が生じた。これらのモデルは現地で観測された被害とも照合するものであった。総地震数は71万1,341回。このうち、有感地震は6万2,826回(震度5:9回、震度4:48回、震度3:413回、震度2:4,596回、震度1:5万6,253回)を数えた。最盛期は1966年(昭和41年)であり、私が長野に行った、1969年(昭和44年)は終息時期にあたったが、何度も縦揺れの地震を経験した。1970年6月には、長野県が終息を宣言した。

2022.4.19 松本インターから長野インターまで高速で行き、女房の実家により、戻って旧松代駅前に着いた。県道388号線(六鹿松代停車場線)は、ここが起点で、城下町を走る。すぐに、娘が生まれた「松代病院」前を通り、町屋が並ぶ街道(旧国道403号線)に出て50m程行って右折し、南下して行くと、武家屋敷の後が少し残っていた。旧西条村に入り、人家もまばらになって来て、山際になり、少し行くと「気象庁地震観測所 地震観測施設(旧松代舞鶴山地下壕)」前に着いた。車を止めて写真を撮り、さらに奥の方に車で رفت



たが建物はあったが、宿泊施設見たいな感じで研究所施設はどこ？・・感じでした。県道 388 号線に戻って更に南下した。

200m 程行った所が、県道 388 号線の終点で、この辺から谷間の集落（入組地区）に入った（県道 388 号線走破）。集落が途絶えたが、道はあったのでそのまま進んでみた。登りの山道に入り、曲がりも多くなり道も細くなった。山の中に集落（結果的に最後の集落）があり、この先も家があるかなと思い進むと、「宮野平自然の森入口」の表示があり、ここまで舗装されていた。さらに行くと県道 35 号線の地蔵峠に出れそうなので、不安に思いながら進むと、なんとか地蔵峠に到着した。この後県道 35 号線で真田方面に行き上田方面の県道を走って、麻績インターから帰宅した。

旧西条村は、昭和 31 年に松代町に編入されたが、昭和 26 年～32 年にかけて、清野村・東条村・豊栄村・寺尾村・西寺尾村 1 部・東福寺村 1 部が合併し松代町が形成された。西寺尾村については、当時松代につくか篠ノ井につくかで大激論になったみたいだが、結局、ほぼ千曲川の東が松代に西が篠ノ井に分裂したが、10 年後の昭和 41 年には篠ノ井市と松代町が長野市と合併してしまった。

女房の実家から篠ノ井駅に行くには、今は、オリンピック道路が出来、南長野運動公園経由で篠ノ井駅に行く整備された道路でいけるが、それまでは、曲がりが多い道（濃い赤の点線で示す道）で、松代町に行くのに比べて、遠く感じていた。東福寺で千曲川の堤防下の道路の県道 385 号線（松代篠ノ井線）に出て、そこからはほぼ直線で篠ノ井駅に向かって行く。東福寺といえば、桃の産地であり、桃農家が散在している。国道 18 号（篠ノ井バイパス）を過ぎると、道路脇には、商店を初め、病院が進出してほぼ埋まって来た。県道 77 線（旧国道 18 号線）との交点を過ぎると、昔からの商店街に入り、篠ノ井駅（1995 年に改装された）が見える、県道 387 号線との交点で県道 385 号線は終点となる。近年、篠ノ井駅から国道 18 号線までの区間を、AC 長野パルセイロのチームカラーにちなみ、「篠ノ井オレンジロード」の愛称で呼ばれている。

東福寺から松代までの区間は、2021.4.1「森のあんずの花見」に行った折り、篠ノ井経由で松代に行った時に通った。東福寺の土手下沿いから土手に上がると、赤坂橋と長野県消防学校の建物が見えてきた。赤坂



橋は、2009 年に建て替えられて堤防から堤防（約 525m）の橋になったが、前は、川に架かる部分の橋と堤防の中の河川敷道路を通っていた記憶がある。赤坂橋から先の県道 385 号線は、高速道路などの開通で、路線変更がされ、現在は、国道 403 号線交点の赤坂橋南交差点からは国道 403 号線と

重複し、上高相交差点までの路線となっている（県道 385 号線走破）。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>



《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.7.29  
遅れていた諏訪湖スマートインター開通  
(アクセス道路として県道50号として開通・走破)

澤田 繁 著

2025.7.29 遅れていた諏訪湖スマートインターが7月27日に開通した。開通したら、このすぐ近くにある友人宅を訪れる予定にしていたので、早速塩尻北インターから高速に乗って、諏訪湖サービスエリアに着いた。この日は暑かったので、かき氷を食べたくて、探したが見つからずにクーリッシュを買って代用した。スマートインターの出口は、本線に戻る方面のハイウェイ温泉諏訪湖の横



にありました。出入口を出て本線下をくぐり、新県道50号線に出た。左折の先は、まだなく県道50号線につなげるようだ。右折して進むと、SA下りから出て来る線があり、さらにトンネルを通り、本線をくぐり坂道を下って、湖畔に出た。友達の家はこのすぐ近くのはずだが(反対方面に行ってしまった)、結構探していったが留守だった。この後、諏訪駅方面に行き、岡谷インターから帰宅した(新50号線も走破)。途中「SUWAガラスの里」(写真)に寄って買い物をした。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.8.19

自宅より4分（1.6km）の清水寺（山形村）探訪

澤田 繁 著

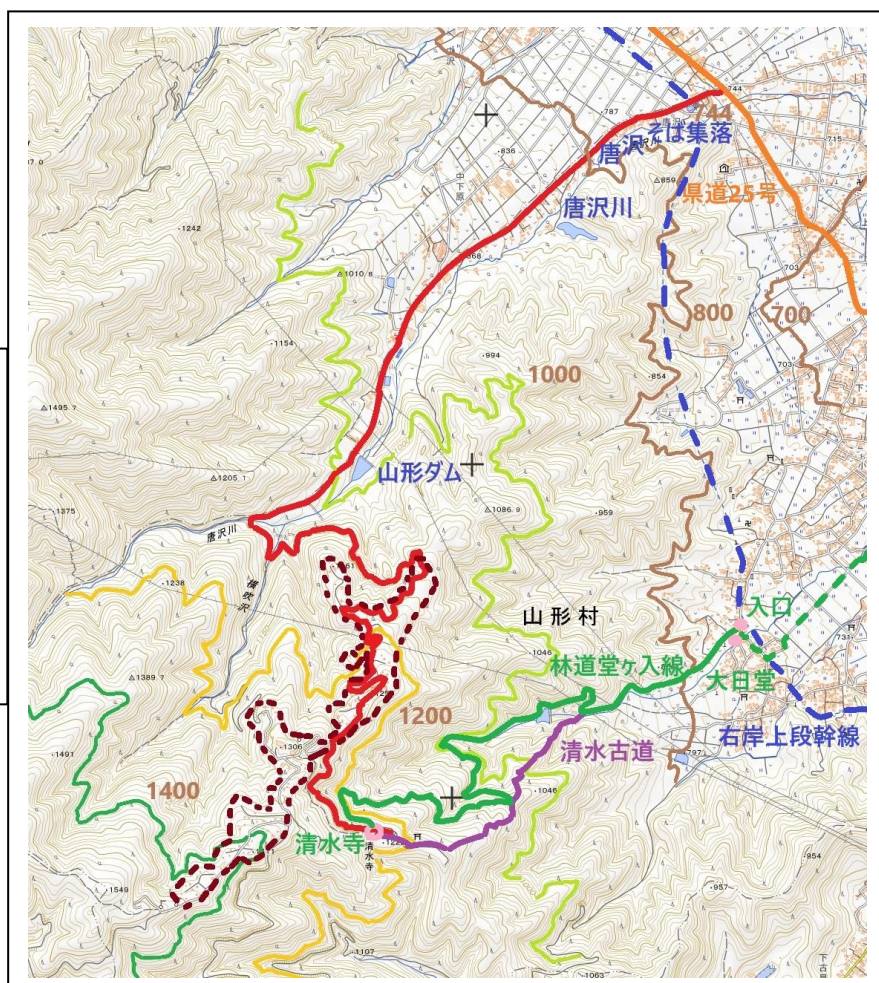
2025.8.19、県道 25 号線の山形村「唐沢そば集落」の入口（標高 744m）から「清水寺」までは、車で 20 分の所にある。唐沢そば集落の横を通り、唐沢川に沿って直線的に標高 1000m の堤防ダムまで登り、川を渡るとカーブが多い山腹の道になり、1.5 km 程行くと、標高 1100m を越え、清水高原別荘地にはいる。別荘地は、ここから始まり、尾根沿いを標高 1450m までに点在するが、別荘始まり地点には、まだ別荘はなく、さらに尾根に近い山腹の道を登って行くと、**右手**に支線（この支線沿いには数軒の別荘がある）が始まり、さらに進むと右手に 1 軒の別荘が見える。もう 1 軒見え、さらに進むと尾根道に出て、両側に別荘地が多くあるところに着く。自宅は多くある別荘地の手前の支線の奥にあり、道からは見えません。この別荘地が多くあるところを過ぎて、清水寺への表示がある三差路を左折し、やや細くなった山道を 700m 程下って行った所にある。



清水寺には、清水古道と呼ばれる参道があり、県道 25 号線の中大池交差点から中大池地区を通り、右岸上段幹線（昭和 40 年）によって、水が供給され、出来た田んぼの中を通り「大日堂」前に出て右折しすが、清水古道にいく入口（写真下）



であった。ここより約 1km 先に「清水古道」入口があり、入口から清水寺まで約 3.5km、およそ 1 時間 30 分。天平元年（729 年）に創設された清水寺に参詣した信者が歩いた道が「清水古道」と呼ばれていま



す。古道入口には、ログハウス手前に自然石に彫られた石仏と「左きよみづ」の指差し道標が並ぶ。入口から車でも「林道堂ヶ入線」で清水寺に行ける。舗装されている道だが、すれ違いはきびしいカーブの多い山



道である。別荘暮らしにとっては、災害時の避難路として必要なため、年に何回か利用している。

清水寺（山形村）のネット上の説明を探して見ました。後は、山形村図書館にある「山形村村史」にも、清水寺を研究され、掲載されていると聞いているので、機会あれば見て見たいと思います

ネット上では「山形村ホームページ」と「ウィキペディア」と「長野県：歴史・観光・見所」の 3 か所を掲載します。

### 「山形村ホームページ」

標高 1,200m、松本平を一望する清水高原にあり、下界の喧騒とは無縁な静寂で荘厳な雰囲気がただよう。

寺伝によると、**天平元年（729 年）**の春、釋行基が廻って来られ、自ら千手観音の尊像を彫って安置し**創設**したと言われる。その後延暦年間、坂上田村麻呂が蝦夷征伐の際、本村清水寺を参詣し、征伐の成功を祈願したところ、靈驗あらたかであったため、**本村清水寺の千手観音を京都へ移し、それが京都東山にある清水寺になったと伝えられている。**その真偽の程は定かではないが、現在の本尊は清水様式と呼ばれる千手観世音菩薩像で、京都清水寺の千手観世音菩薩像と同



じ様式（清水様式の千手観世音菩薩像は全国に数十体しかないと言われる）である。また、全国には 100 程「清水寺」の字を持つ寺院があるが、その多くは「せいすいじ」と読み、「きよみずでら」と読む寺院は少数である。京都清水寺との縁を感じずにはいられない。**仁王門**（写真上）から山門へ延びる参道



には百体観音があり、その容貌の柔和さ、敬虔さは見飽きることがなく、いにしえの浪漫が漂う。その仁王門には、阿吽二体の**仁王像**（写真：像の前に格子があり、格子の間から何回かに分け撮影したものを合成した）が安置されているが、石造であり大変に珍しい。松本平では最も古格であり、その造形は中国に通ずる大陸的な格調を持つと言われる。また鐘楼の鐘は、太平洋戦争の折供出されてしまったが、昭和 28 年、人間国宝香取秀真氏、息子の正彦氏により再鑄されたもので、現代の名鐘である。

### 「ウィキペディア」

寺は真言密教の祈願寺で檀家を持たないため、度々荒廃にさらされてきた。しかし現在は村民の心のより



どころとして、村民を会員とした清水寺保存会が組織され、保存管理にあたっている。

**創建は古く、奈良時代**だと言われる。現在は無住であり僧侶はいないが、保存会により管理人が常駐し、朝晩の鐘も鳴らされている。伝説では、行基がみずから千手観音像を彫って安置したのが始まりとされ、その後、坂上田村麻呂が有明山の鬼「魏石鬼八面大王」を退治する（この地方で大和政権に従わなかった地方豪族は、坂上田村麻呂にとっては「鬼」であったのだろう）に際して、勝利祈願のために清水寺を再興させた。清水観音は、この征討戦で大きな役割を果たしたという伝承がある（『信濃毎日新聞』2012年6月20日号22面記事は、創設を729年（天平元年）と断定して掲載した）。

また、**坂上田村麻呂が千手観音を京都に移したことから、京都東山の清水寺になった**とも伝えられる。現在の本尊である千手観音菩薩像は、左右の手を頭上に高く上げて小さな如来像を捧戴する京都と同じ清水様式である。

「[長野県：歴史・観光・見所 \(www.nagareki.com\)](http://www.nagareki.com)」

清水寺（山形村）概要： 慈眼山清水寺は長野県東筑摩郡山形村清水高原に境内を構える天台宗の寺院です。清水寺の**創建は天平元年（729）**、行基菩薩が諸国巡錫の折、この地を霊地と悟り自ら千手観音像を彫り込み安置したのが始まりと伝えられています。延暦24年（805）から大同元年（806）、安曇野地方に大きな影響力を持った八面大王の討伐の為、朝廷は坂上田村麻呂を派遣、田村麻呂は清水寺に戦勝を祈願すると見事念願成就し大王を討つことが出来ました（一説には安曇野に侵攻した田村麻呂軍の悪逆非道の為、八面大王が立ち上がったが返り討ちあったとも）。**田村麻呂は本尊である千手観音像を京都に持ち帰り清水寺を創建**したとされ当寺が京都東山の清水寺の本寺と云われる由縁となっています。

清水寺は山岳密教寺院として寺運も隆盛しましたが、檀家が無く、参拝するにも難儀だった為、次第に衰微し江戸時代には境内もかなり荒廃していました。奈良時代から平安時代にかけて隆盛した山岳寺院の多くは麓に降り、為政者や支配者の庇護を受け、多くの檀家を獲得しましたが、清水寺は山中に留った為僧侶も離散、麓の村が管理したものの、一度不



山門（円通門：門の間に本堂が見える）





況になると境内維持は困難となり荒廃の一途をたどりしました。宝永6年（1709）に禅心が住職に就任すると清水寺の再興が図られ、広く浄財を集めると享保11年（1726）には観音堂、享保12年（1727）には鐘楼が再建され、跡を継いだ光賢も境内整備と布教に尽力しました。山号：慈眼山。宗派：真言宗。本尊：千手観音菩薩。

清水寺の**本堂**（写真：仁王門の写真の上）は享保11年（1726）に建てられたもので、寄棟、金属板葺（内部茅葺）、妻入、桁行6.3m（3間）、梁間9.3m（5間）、正面一間軒唐破風向拝付、外壁は彩色、彫刻は極彩色。**山門**（写真は前ページ下）は享保11年（1726）に建てられたもので、寄棟、金属板葺、一間一戸、桁行3.1m、梁間2.4m、四脚桜門、上層部朱塗り、花頭窓、高欄付。

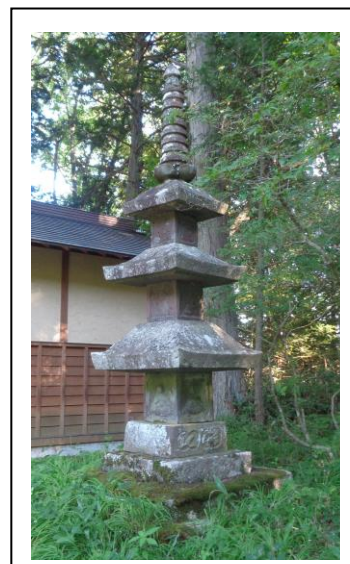


**鐘楼**は享保12年（1727）に建てられたもので、宝形屋根、金属板葺（旧茅葺）、袴腰、桁行2.45m、梁間2.45m、上層部朱塗り、彫刻部極彩色。

**石造三重塔**は、享保15年（1730）に清水寺を中興した禅心和尚が発願し、高遠領片倉村出身の石工良兵忠行が製作したもので石造、総高336cm。仁王門に安置されている仁王像は石造、阿形像像高165cm、

吽形像像高165cm。清水寺の本堂、山門、鐘楼、石造三重塔、仁王像は貴重な事から昭和42年（1967）に山形村指定文化財に指定されています。

清水寺は寺宝が多く**本尊**（写真：最終ページ）（千手観音立像・作年：江戸時代、総高168.5cm、像高117.7cm、本堂厨子に安置、毎年5月十八夜の日には御開帳）、**前立本尊**（千手観音立像・製作年：江戸時代、総高100.7cm、像高53.2cm）、**大日如来**（写真：次ページ



前立本尊：左右は四天王2体



釈迦三尊（文殊菩薩・釈迦如来菩薩・普賢菩薩）



上左）（製作年：室町時代、総高136cm、像高79.5cm）、**普賢菩薩**（製作年：江戸時代、南阿現良作、総高110cm、像高66cm）、**釈迦如来賢菩薩**（製作年：江戸時代、総高120cm、像高43cm）、**文殊菩薩**（総高120cm、像高44cm）、小観音（聖観音：2軀、総高33cm、像高19cm）、唐塔（製作年：享保16年：1731年、石造、高さ62cm、幅30cm、奥行55cm）、經典（大般若経6百巻）が山形村指定文化財、枝垂桜、アララギが山形村指定天然記念物に境内全域が山形村指定史跡にそれぞれ指定されています。





（上の写真：羅漢7体が、左右の天井近くに設置されている）

清水寺の鐘樓の**鐘**が復活したのが、昭和28年（1953年）になります。私が、清水高原に引っ越してきたのが、1977年でそれ以後、大晦日には「除夜の鐘」を突いていた鐘（最近の数年は無いが）、この鐘は、1977年に**人間国宝に認定された「香取正彦氏」**によって、創作された鐘である。香取正彦氏は、戦後は父と共に、戦時中に失われた梵鐘を復活させるべく、積極的に梵鐘制作に取り組みました。秀真没後は正彦が単独でこれを継ぎ、最終的に150口以上の梵鐘を制作しました。1977年に正彦は**重要無形文化財梵鐘の保持者**として認定され、制作された梵鐘は、今でも日本全国の寺院で美しい音色を響かせ、人々の心を癒し続けています。



山形村と京都清水寺との関係は「古の坂上田村麻呂」に始まり、近年、大西良慶和尚との深いご縁（大西真澄様）があり、**2014年5月1日**、山形村ふるさと講演会に、あの年末の「今年の漢字」を書くニュースでおなじみの**「森清範清水寺貫主」**の講演が予定され、人気が高く、申し込みが定員を超えてしまい、多くの方に、御断りをしての講演会になった。1時間あまりの講演でしたが、会場の雰囲気は終始**森貫主**のお話にのみ込まれていました。



講演会の次の日、毎年行われている、清水寺の「本尊」の御開帳に、立ち会われていただき、以後毎年来ていただいています。御開帳は、八十八夜（立春を起点に八十八日目の日）に行われます。当日、例年より早く行基桜が咲き、清水寺保存会を中心とした、村会議員・林務委員・消防団・各常会代表・史跡委員・教育委員会など 100 名があつまり御開帳が行なわれました。清水高原別荘の人も 10 名を超える参加がありました。今年（2025 年）は、5 月 1 日が八十八夜にあたり、**森貫主**も来られました。



**森貫主**は、2016 年 6 月 26 日、清水寺で長野県阿部知事と百瀬山形村村長で健康をテーマにした対談が実現し、それが縁で、山形清水寺絆会（会長 小林政幸さん）は、京都清水寺の**森清範貫主**が揮毫した書を長野県に寄贈し、阿部知事からは、森貫主と小林会長に感謝状が手渡されました。



2025.8.21、清水寺の残りの写真を撮りに行き、御朱印をもらって来ました。御朱印は、長野県内で何か所も、もらって来ていますが、「御朱印」検索でネットを調べていたら、



全国の神社・お寺

人気ランキング 2025 のサイトに行きついた。

県別もあり、長野県を見て「清水寺」を探したら、1 位が善光寺、2 位が眞田神社（真田神社）、3 位が諏訪大社上社本宮で、最新（令和 7 年 8 月）の御朱印が掲載されていた。200 位まで探して行ったが、山形村の神社・お寺はなく・飛ばして 400 番台に、477 位に清水寺がありました。写っている御朱印の日付が、令和元年五月十二日で、6 年も更新がない状態でした。このサイトでの更新方法は多分会員登録して・・・と思われる。又 500 番以内での神社・お寺で「御朱印」ありの表記は 9 割近くで 800 番以内は 4 割近く、で最終番号が 1091 番でしたので、長野県内で、約 700 以上の「御朱印」が存在している事ようだ。

